

調査概要

調査名
 (仮称) 北部学校給食センター外1か所地質調査業務委託
 [(仮称) 北部学校給食センター]

調査目的
 本調査は、(仮称) 北部学校給食センター整備・運営事業に伴う事前調査として、建設予定地内の地層構成・土質特性を把握し、設計・施工に資するため、必要な地盤の地質構成並びに工学的性質を明らかにすることを目的とした。

調査場所
 (仮称) 北部学校給食センター (旧県立相模原総合高等学校の一部)
 相模原市緑区大島1225-2, 1288, 1228-2, 1229-75外

調査期間
 自) 令和5年 7月 21日~至) 令和5年 10月 20日

委託者
 相模原市教育委員会 教育局 学校給食課

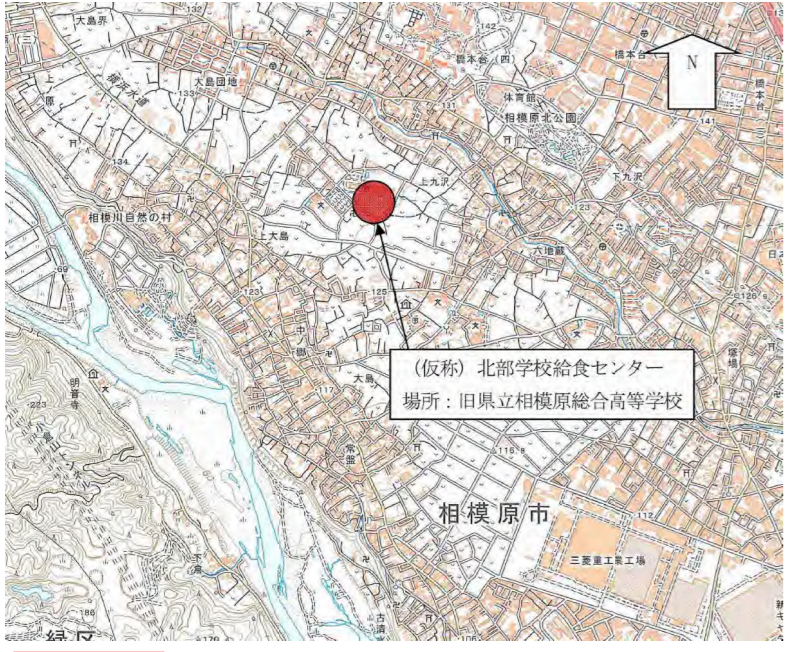
調査機関
 柴胡の原地質コンサルタント株式会社



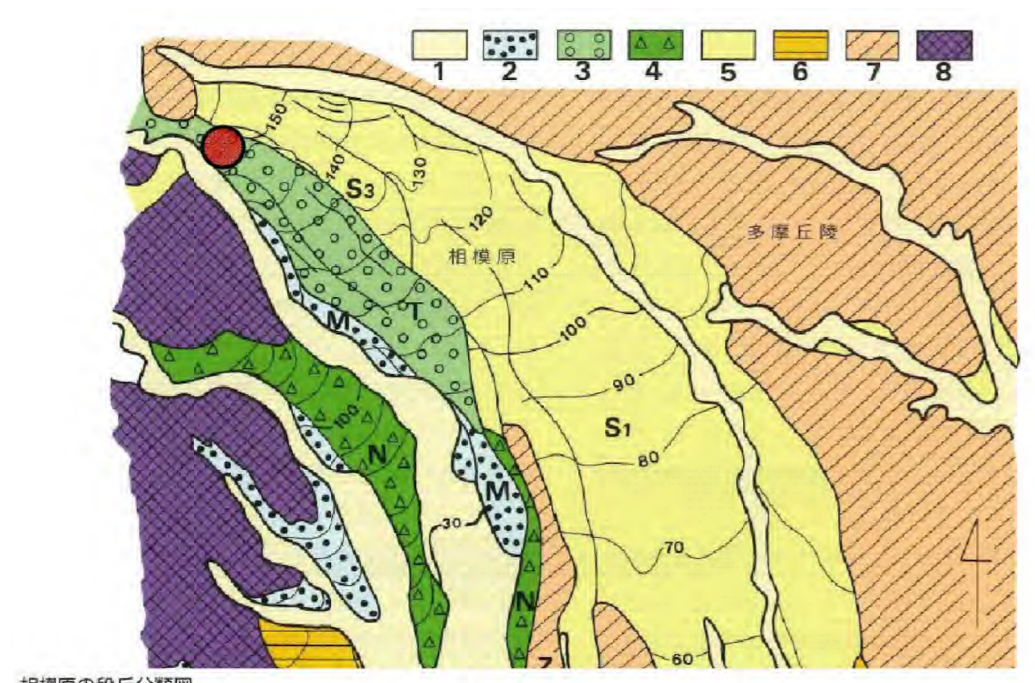
数量表 機械ボーリング掘削調査実施数量表

Bor. No.		1	2	3	合計
機械ボーリング	粘性土・シルト	7.0	4.9	8.2	20.1
	礫混じり土砂	0.0	1.9	0.0	1.9
	玉石混じり土砂	7.0	4.2	5.8	17.0
	粘性土・シルト	0.0	2.0	0.0	2.0
	礫混じり土砂	0.0	0.0	0.0	0.0
ボーリング掘削計		14.0	13.0	14.0	41.0
サンプリング(本)	デニゾンサンプリング	0	1	0	1
	シンワールサンプリング	0	0	0	0
サウンディング	標準貫入試験(回)	6	5	7	18
	礫混じり土砂	0	2	0	2
	玉石混じり土砂	8	5	7	20
	土粒子の密度試験	0	1	0	1
室内土質試験(試料)	土の含水比試験	0	1	0	1
	土の粒度試験	0	1	0	1
	土の液性限界試験	0	1	0	1
	土の塑性限界試験	0	1	0	1
	湿潤密度試験	0	1	0	1
	一軸圧縮試験	0	1	0	1
	三軸圧縮試験(UU)	0	1	0	1
		0	1	0	1
		0	1	0	1
		0	1	0	1

案内図

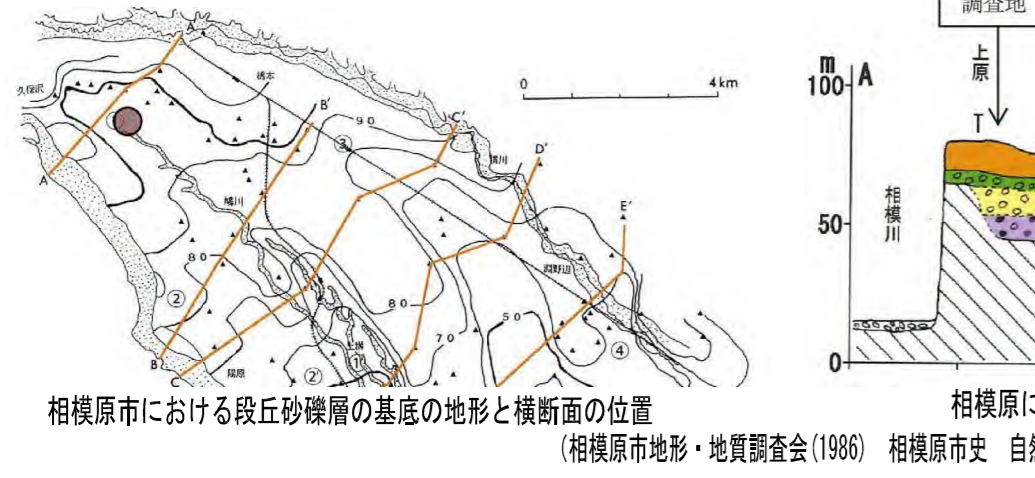


地形図



相模原の段丘分類図
 1. 沖積低地; 2 (N); 陽原段丘; 3 (T); 田原原段丘; 4 (N); 中津原段丘; 5 (S1~S2); 相模原段丘; 6 (K); 高座丘陵 (下末吉段丘); 7 (Z); 座間丘陵と多摩丘陵; 斜面; 8. 山地
 相模原市地形・地質調査会 (1984)

相模原の段丘分類図
 出典: 「相模原市地形」(地質調査会(2009) 相模原市史 自然編)

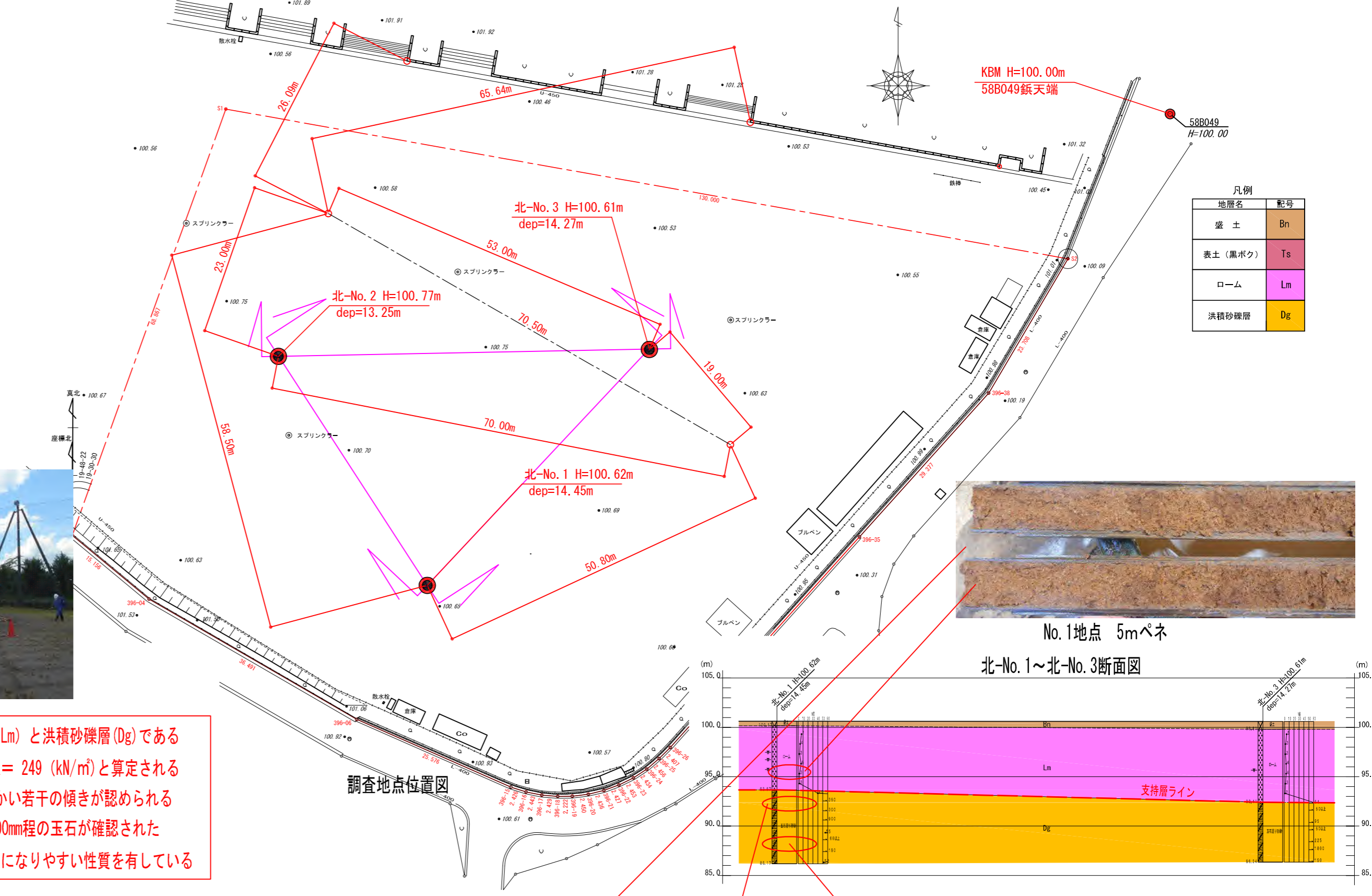


相模原における段丘の横断面図 (A断面)
 (相模原市地形・地質調査会(1986) 相模原市史 自然編)

調査結果

土質定数

地層区分	記号	土質定数				γ, t, c, φ, Eの算定方法	
		代表N値	単位体積重量 γ _t (kN/m ³)	粘着力 c (kN/m ²)	内部摩擦角 φ (°)		変形係数 E (MN/m ²)
盛土	Bn	-	14	10	0	-	γ _t は表-5.3 cは表-5.3 φは考慮外
表土(黒ボク)	Ts	-	12	15	0	-	γ _t は表-5.4 (関東ロームの下限値の丸め) cは表-5.3 φは考慮外
ローム層	Lm	3.3	13	90	10	59.3	γ _t , c, φは試験値の丸め EはE ₅₀ の平均値
洪積砂礫層	Dg	40	20	0	40	112	γ _t は表-5.2, 3 cは考慮外 φは5-2式, 表-5.3 Eは5-10式



- ・支持層と考えられるのはローム層 (Lm) と洪積砂礫層 (Dg) である
- ・ローム層の長期許容支持力 q_a は $q_a = 249$ (kN/m²)と算定される
- ・洪積砂礫層 (Dg)は北-No. 3地点に向かい若干の傾きが認められる
- ・洪積砂礫層 (Dg)において最大でφ300mm程の玉石が確認された
- ・ローム層は土を乱した時に液性状態になりやすい性質を有している



工事名	(仮称) 北部学校給食センター外1か所地質調査業務委託 [(仮称) 北部学校給食センター]		
図面名	概要図		
年月日	令和 5年 10月		
尺度		図面番号	
調査機関	柴胡の原地質コンサルタント株式会社		
発注機関	相模原市教育委員会 教育局 学校給食課		

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 (仮称) 北部学校給食センター外1カ所地質調査業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	北-No.3	調査位置	神奈川県相模原市緑区大島1225-2, 1288, 1228-2, 1229-75外			北緯	35° 34' 49.2200"		
発注機関	相模原市教育委員会教育局学校給食課	調査期間	令和5年 8月25日～ 令和5年 8月29日			東経	139° 19' 21.0800"		
調査業者名	柴胡の原地質コンサルタント株式会社 電話 042-748-2622	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者				
孔口標高	H=100.61m	角	180° 上 下	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 YBM-05
総削孔長	14.27m	度	0°	向				エンジン	ヤマ-TF90M
						ポンプ	カー V6		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試料採取		室内試験	削孔月日		
											深度 - N 値 図						深度 (m)	試料番号			採取方法	
												N 値	100mm毎の打撃回数	50回の貫入量	自沈時の貫入量							
												深 度 (m)	0	100	200	300	打撃ごとの貫入量					
1	99.81	0.80		盛土	Bn	暗褐			ローム主体 黒ボク混入	8/26 4.95	0	1.15	1	2	2	5						
2						暗褐			0.80~1.50m 有機質ローム 酸化物・炭化物を含む		5	1.45										
3						〃			スコリアをやや多く含む		3	2.15	1	1	1	3						
4				ローム	Lm	茶褐			4.0m付近 スコリアを多く含む		3	2.45										
5						〃					4	3.15	1	1	1	3						
6						〃			6.0~8.0m間 軽石・酸化物・炭化物を多く含む		4	3.50										
7						黄褐			7.0m付近 弱粘性を有する		4	4.15	2	1	1	4						
8	92.41	8.20				〃			8.0m付近 砂分を含む		4	4.45	1	1	2	4						
9									φ2~15mm程度の亜円礫主体		4	5.15	1	1	2	4						
10									マトリックスは粘土混り砂~砂混り粘土		4	5.47										
11				玉石混り砂礫	Dg	黄褐	rd5		φ50~200mm程度の硬質な礫・玉石を含む		3	6.15	1	1	1	3						
12									9.50m付近 逸水やや激しい		3	6.49										
13									12.0m付近より 玉石の含有やや少くなる		2	7.15	1	1		2						
14	86.34	14.27							所々、粘土混じり砂礫状を呈する		2	7.47										
15											64	8.15	5	12	43	60	233					
16											60以上	8.43										
17											60以上	9.00	貫入不能	貫入不能	貫入不能	貫入不能	0					
18											95	10.15	37	23	60	158						
19											60以上	10.34										
20											60以上	11.00	貫入不能	貫入不能	貫入不能	貫入不能	0					
											225	12.15	60			60	67					
											1800	12.23	80			80						
											150	13.00	60			60	8					
											150	13.01	10			10						
											150	14.15	60			60	100					
											150	14.27	120			120						